イチローさん 妻に感謝

自身のレリーフを手に笑顔を見せるイチローさん＝27日、ニューヨーク州クーパーズタウン（共同）

【クーパーズタウン（米）ニューヨーク州（共同）】米国野球殿堂入りしたイチローさん（51）＝本名鈴木一朗＝は27日、ニューヨーク州クーパーズタウンで行われた表彰式典に臨み、英語でのスピーチで冗談も交えて喜びや感謝の思いを語り「イチローコール」で出迎えたファンを沸かせた。【1面に本記】

米殿堂スピーチ

「一番支えてくれた」

▲イチローさんの妻弓子さん（中央）。夫のスピーチに拍手した（共同）

イチローさんが約20分間の英語スピーチで訴えたかったのは、継続と準備の大切さだろう。現役時代から球場内外でいくつものルーティンがあったが、それらは全て最高のプレーを見せるためだった。

「ファンが貴重な時間を割いてプレーを見に来てくれているのであれば、務めを果たす責任がある。自分は一試合一試合、自分の完全に集中することをファンに約束することを、プロとしての責務と感じていた」。特殊なマシンを使ったトレーニング、入念なストレッチで体の柔軟性を保つ。毎日、同じものを食べる習慣で体調のわずかな変化を感じとり、故障防止につなげた。そんないくつもの地道な、そして膨大な積み重ねがプロ野球ドラフト4位入団の高校生を「野球の聖地」へと導いた。

家族への感謝を強調したのもイチローさんらしい。「自分を一番支えてくれたのは妻弓子です。彼女のエナジーは全て自分を支え、励ますことに注がれていた。彼女は自分にとって最も一貫したチームメートだった」。苦楽をともにした伴走者にも、大観衆から温かい拍手が送られた。

英語で20分 笑いあり、敬意あり

英語でのスピーチを終えた後の、イチローさんの一問一答は次の通り。

―スピーチの準備は大変だったか。

「最も力になってくれたのは妻。練習（回数）は数えられない。20分近くあるので何回もできない難しさがあった」

―英語で話した理由。

「気持ちが（より）伝わるのはやっぱり米国の言葉である英語と思った。日本語で話すのとは全く次元が違う。ものすごく高いハードルだったが、迷いはなかった」

―何度も笑いを誘った。

「伝わっているのか、という心配の方が強かった。英語のジョークと日本語のジョークは全く違うが、僕は基本的に楽しくしたい人間。米野球殿堂入りはゴールではなかったが（周囲を）笑わすことは結構ゴールにしている」

―野茂さんへの感謝だけは日本語だった。

「野茂さんが（大リーグで）プレーしていなければ（米野球との）距離は永遠に縮まらなかったと思う。野茂さんが投げるとき、必ず（テレビ）放送があった。そこで、野球やストライクゾーンの違いとか、いろんなことを知った。自分がすごく悩んで、葛藤していたときに野茂さんの活躍が目に入ってきてすごく感動した。僕は（近鉄時代の）野茂さんと対戦していたので、自分のモチベーションにつながった」

―他者への敬意があふれたスピーチだった。

「敵やチームメート、審判に対してといろんなリスペクトがある。これなくしては（野球が）成立しない。それ（敬意）なくしては見ているファンも気持ち良くない。感情を子供みたいに出してプレーするというのであれば、いい文化が伝わっていかないと思う」